

第七十三回帝國議會
衆議院

恩給金庫法案外一件委員會會議錄(速記)第五回

付託議案

恩給金庫法案(政府提出)
恩給法中改正法律案(政府提出)
恩給金庫法案(政府提出)
恩給法中改正法律案(政府提出)

會議

昭和十三年二月二十四日(木曜日)午前十時
三十七分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 前田房之助君

理事最上 政三君 理事小笠原三九郎君

理事坂東幸太郎君 理事江藤源九郎君

理事森 幸太郎君

高橋 義次君

村瀬 武男君

松田 正一君

曾和 義次君

池田七郎兵衛君

松本治一郎君

出席國務大臣左ノ如シ

文部大臣兼
厚生大臣

出席政府委員左ノ如シ

內閣恩給局長 高木 三郎君

法制局長官 船田 中君

陸軍政務次官 加藤久米四郎君

厚生參與官 山本 芳治君

厚生省社會局長 山崎 巖君

厚生書記官 福本 柳一君

保險院長官 進藤 誠一君

保險院簡易保險局長 藤川 靖君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ
陸軍歩兵大佐 及川 源七君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

恩給金庫法案(政府提出)

恩給法中改正法律案(政府提出)

○前田委員長 是ヨリ開會致シマス、木戸

厚生大臣ノ出席ガアリマシタカラ、最上政

三君ニ質問ヲ許シマス

○最上委員 私ハ厚生大臣ニ御伺シタイノ

デアリマスガ、時間ノ都合モアラレヤウ

デアリマスカラ、大臣ニ質問スル點ヲ先ヅ

最初ニ御伺シテ、其後ニ軍事扶助法其他軍

人援護資金等ノ支給狀況等ニ付テ、政府委

員ノ御答辯ヲ願ヒタイト思フデアリマス

私ノ伺ヒタイノハ、先頃ノ本會議ノ席上ニ

於テ、第五ノ質疑トシテ、現下一部老兵者

ノ人々ガ老年金制度ノ運動ヲヤッテ居ル

ノデアリマシテ、既ニ老年金ノ建議案ハ、

第六類第七號 恩給金庫法案外一件委員會會議錄 第五回 昭和十三年二月二十四日

ミナラズ、更ニ進シテ養老年金ノ施設ヲ爲

ス意向アリヤ否ヤニ付テ、厚生大臣ニ質疑

ラシタノデアリマス、當時議場ニ於テハ、

是ガ詳細ナル御答ガアリマセヌカラ、改メ

テ本席ニ於テ是等ノ問題ニ付テ、厚生大臣

ノ御答辯ヲ願ヒタイト思フデアリマス、

御承知ノ如ク我國ニ於ケル社會保險トデモ

申シマセウカ、サウ云フ種類ノ制度ハ、僅

ニ簡易生命保險其他一二ノモノシカナイノ

デアリマス、隨テ今回私ガ特ニ養老年金ノ

實施如何ヲ政府ニ問フノハ、申マデモナク

今回ノ事件等ニ於テ、戰時中下幸ニシテ戰

傷セラレタル人々、或ハ名譽ノ戰死ヲサレ

タル人々ニ對シテハ其額ハ少額デアルガ、

多少タリトモ扶助料トカ、傷病年金ガ支給

サレテ居ルノデアリマス、然ルニ戰時中相

當功績ヲ立テタ人ニ於テ、是ハ本人ニ取ッテ

ハ非常ニ幸ナコトデアリマスガ、何等負傷

シナイ爲ニ、其老後ニ於テ肉體上働クコト

ガ出來ナイト云フ場合ニ於テ、不幸其生活ニ

吾々ガ日常新聞紙上デ、日清戰役ノ老勇士

ガ生活苦ノ爲ニ行倒レニナッタトカ、或ハ日

露戰爭ノ勇士ガ生活難ノ爲ニ竊盜ヲ働イタ

ト云フヤウナコトガ、能ク世上ニアルト云

フ記事ヲ見ルノデアリマス、是等ハ要スル

ニ國家ガ單ニ老兵ノミナラズ、一般國民ノ

老後ニ於ケル何等ノ社會施設ヲ爲サナカッ

タ結果ナリト私達ハ思フノデアリマス、現

ニ國家ハ國民ノ各方面ニ對シテハ色々救済

施設ヲナサイマス、例ヘテ申シマスレバ、

震災手形ノ補償デアルトカ、或ハ地方農村

ニ對スル各種救済手段ヲ講ゼラレマスガ、

要スルニ是等ハ私達カラ申シマスレバ、中

産以上ノ人々ニ對スル救済デアッテ、眞ニ中

産以下、特ニ貧民階級ニ對スル救済ハ何等

我國ニ於テハ其施設ガ無いノデアル、失業救

濟等ノ對策ハアリマスガ、失業保險、其他

諸外國デ行ハレテ居ル所ノ徹底ノ社會施

設ガ無いノデアリマス、故ニ屢、議會等ニ於

テモ問題ニナルノデアリマスガ、老後ニ於

ケル一般國民ノ生活ノ困難ヲ緩和スベク、

國家ガ何等カノ施設ヲシナケレバナラヌト

云フノガ、私ノ大臣ニ聞カントスル本旨デ

アリマス、即チ英國等ニ於テハ既ニ養老年金ノ制度ガ行ハレ、又佛蘭西、獨逸其他ノ國々ニ於テモ行ハレテ居ルノデアリマス、我國ニ於テ強ヒテ養老者ニ對スル社會施設ト云フベキモノヲ見レバ、現ニ厚生省ニ於テ行ハレテ居ル郵便年金デアリマス、然ルニ其郵便年金ノ額タルヤ、大臣ハ此様ナ細カイコトハ御知リデナイカモ知レマセヌガ、先ヅ男子ガ三十歳カラ老後ノ生活ヲ思ヒ、玆ニ老後ノ資金ヲ得ベク郵便年金ニ入ラウトスルト、ドノ位ノ掛金ヲ掛ケルカト申シマス、三十歳デ初メテサウ云フ心ヲ起シタ人デ、三十一歳ノ掛金ハ、年額百圓ヲ取ルト考ヘタ人ガ、五十五圓九十二錢デアリマス、而モ二十年間毎年五十五圓九十二錢宛ヲ納メテ五十歳ニナツテ漸ク月ニ百圓位ノ年金ヲ取レルト云フノガ現行ノ郵便年金ノ規則デアリマス、又即時ニ其年金ヲ貰フベク、會社トカ、商店等ヲ經營シテ居ル、人ガ、一時ニ金ガ入ツタ場合ニ、即時年金ヲ掛ケテ老後ノ計ヲ圖ラウトスレバ、ドノ位ノ掛金ヲスルカト申シマス、四十歳ノ人ノ即時年金ハ月百圓位ヅツ取ルノニハ、其額ハ驚クベシ千八百九十八圓以上納メナケレバナラスノデス、殆ド定期預金、其他ノ預金ノ率ニモ及バナイ、是ガ現在我國ノ養老

年金ニ比スベキ老年者ニ對スル社會施設デアリマス、私ハ此年金ヲドウカ改メテ戴キタイト思フ、ソレニハ各國ニ於ケル所ノ養老年金ノ制度、之ニハ勿論色々アリマス、英國ノ如キ片務的ニ掛金ヲ出サナイ制度モアリ、佛蘭西ノ如キ任意的デ掛金ヲ出ス制度モアリマス、私共ハ現下ノ國家ノ經濟事情、其他ヲ考ヘテ、勿論英國ノ如キ片務的ナ養老年金制度ヲ布イテ吳レトハ言ヒマセヌ、少クトモ佛蘭西其他ニ行ハレテ居ル、掛金制度ノ養老年金ヲ行フコトヲ私ハ政府ニ要望スルト共ニ、今俄ニ徹底セル養老年金ヲ布クコトハ困難デアリマセウガ、先ヅ養老年金ニ最モ近イ所ノ制度、其名目ハドウデモ宜イノデアリマスガ、年金制度ヲ作ル考ヘナキヤ如何、又厚生省ニ於テハ、先ヅ此郵便年金ヲ徹底的ニ改メ、其掛金ノ率等モモット少クシテ效果ヲ大ナラシムルヤウナ方法ヲ執ツテ戴ケルカドウカ、厚生大臣ニ御致シタイト思フノデアリマス

○木戸國務大臣 只今ノ御話ノ點ハ、御趣旨ハ能ク諒承致シマシタ、厚生省ハ御承知ノヤウナ意味ニ於テ成立セラレマシテ、國民生活ノ安定ト云フヤウナコトニ付キマシテハ、十分今後畫策スベキ使命ヲ持ッテ居ル譯デアリマス、隨ヒマシテ、社會保險デアルトカ、或ハ年金制度ト云フヤウナコトニ付テハ、十分今後施設畫策シテ行ク積リデ居リマス、只今御話ノ郵便年金制度ノ改正ト云フコトニ付キマシテモ、御話ノ趣旨モゴザイマスノデ、十分一ツ研究致シマシテ、是ガ制度ノ確立ヲ致シテ行キタイト考ヘマス

○最上委員 只今厚生大臣ノ御説明ヲ聽イテ私多少、満足スルモノデアリマスガ、ドウカ以上申シタ趣旨ニ依ッテ速ニ此郵便年金等ニ對シテ何トカシナケレバナラストオ考ヘ願ヒタイ、現ニ其募集成績ハ多少其件數等ニ於テ成績ハ舉ッテ居ルデアリマセウガ、其方法タルヤ、色々當局者ガ努力シテ、漸ク件數ニ於テモ額ニ於テモ多數ヲ得テ居ルト云フノデアリマスカラ、ドウカ之ヲ改メテ、私ガ先程申ス如ク養老年金トモ云フベキ國民年金トシテ速ニ之ヲ實施セラレルヤウ、調査會等ヲ設置セラレンコトヲ特ニ厚生大臣ニ要望スルノデアリマス

更ニ一點厚生大臣ニ御聽キシタイノハ、大臣就任直後傷痍軍人保護對策審議會ヲ設立サレテ、之ニ付テノ答申案ヲ玆ニ拜見致シタノデアリマスガ、其内容ハマダ私詳シクハ存ジマセヌガ、ドウモ傷痍軍人ダケニ對シテ種々ナル對策ヲ講ジテ居ラレルカ、戰死者ノ遺家族ニ對スル何等ノ施設ガナク此處ニ其項目等モナイヤウニ考ヘラレマスガ、是等ニ對シテハドウ云フ御方針デアリマスカ、伺ヒタイノデアリマス

○木戸國務大臣 傷痍軍人保護對策ノ審議會ハ名目ガ傷痍軍人トナツテ居リマスガ、此研究ニ當リマシテハ、當初ヨリ遺家族ニ對スル研究モ之ニ含メテヤラナケレバイカスデヤナイカト云フ御説ガ委員各位カラモ出マシタ、當時當然ソレハ此中ニ入ルベキモノデアルト云フコトデ審議致シマシタノデアリマス、其問題ハ當然傷痍軍人ト同ジ意味ニ於テ研究シテ居ル次第デアリマス

○最上委員 只今大臣ノ御答辯ニ依ッテ其内容ノ如何ナルモノカラ大體了解致シマシタガ、從來傷痍軍人等ニ對シテハ世間デハ同情モシ、又同時ニ其對策ニ付テ審議ヲスルガ、兎角疎シセラレテ居ルノハ戰死者ノ遺家族デアアルノデアリマス、是等ハ其遺家族ガ或ハ女デアルトカ子供デアルトカ云フ關係デ、世間ニ對シテ自己ノ生活苦ヲ慙ヘルト云フ機關ガ甚ダ乏シイ、ソレガ爲ニドウシテモサウ云フ結果ニ陷ルノデアリマスガ、ドウカ今後トモ傷痍軍人ニ對スル優遇ノ途ヲ講ズル場合ニ於テハ、遺家族ニ對シテモ優遇ヲシテ戴キタイト云フコトヲ申上ゲル

ト共ニ、大臣ニハ御存ジナイト思ハレルノ
デアリマス、先般來私ハ戦死者ノ遺族ニ對
スル國家ノ待遇ガ甚ダ薄イト云フコトヲ展
申上ゲマシタ、ドウカ速記録ヲ御覽ニナツタ
上、今後各種ノ施設ヲ爲ス場合ニ於テハ、
戦死者ノ遺族ニ對シテ國家ガ十分ナ敬意
ヲ持ツテ種々ナル優遇方法ヲ講ゼラレンコト
ヲ特ニ御願シテ大臣ニ對スル質問ヲ是デ打
切リマス

○前田委員長 此場合厚生大臣ニ對スル簡
單ナ質問ガアリマスナラバ許シマス

○塚本委員 只今最上委員カラ傷痍軍人並
ニ其遺家族ノ保護ノコトニ付テ極メテ同情
アル適切ナル質問ガ行ハレマシタガ、ソレ
ト同様ニ今一ツ私ノ痛切ニ現下何トカシナ
ケレバナラヌト考ヘテ居リマスル問題ハ、
出征軍人ノ遺家族ニ對スル救護ノ問題デア
リマスガ、私共ノ地方デハ殆ド各戸共殘ラ
ズ軍人後援會ナルモノヲ組織シテ、ソレニ
皆ガ入リマシテ極メテ有意義ナ組織ヲ以テ
相當效果アル活動ヲシツ、アルノデアリマ
スガ、サウ云フ施設ハ今全國的ニ行ハレテ
居ルノデアリマセウカ、一地方ニ限ラレテ
居ルノデアリマセウカ、或ハ地方々々ニ於
テ區々ニソレハ行ハレテ居ルノデアリマセ
ウカ、其實情ヲ一寸御伺シテ置キタイ

○木戸國務大臣 只今御尋ノ點ハ、大體ニ
於キマシテ此事變ガ起リマシテ後、各府縣
等ト連絡ヲ取りマシテ、今回ノ事變ニ付テ
ハ唯上ノ方ダケデヤラナイデ、市町村ヲ中
心ニ致シマシテ活躍ヲ要望シテ参リ、又サ
ウ云フ風ニ指導シテ參ッテ居リマス、隨ヒマ
シテ細カイ點ニ至リマスト色々組織等ニ違
ヒガアルカト思ヒマスガ、大體ニ於キマシ
テ今御話ノヤウニ地方ノ市町村或ハ方面委
員等ノ盡力ニ依リマシテ、比較的行届イタ
組織ニ依ッテヤッテ居ルヤウニ考ヘテ居リマ
ス

○塚本委員 大阪方面ニ於キマスルヤリ方
ト東京方面ニ於キマスルヤリ方ト大分違ヒ
ガアルヤウデアリマシテ、私今度東京ヘ參
リマシテ其事ヲ痛感シタノデアリマスガ、
ドウモ徹底シテ居ラヌノデヤナイカト思ヒ
マス、或ル地方デハ非常ニソレガ效果的ニ
有效ニ働イテ居リマスシ、或ル地方デハ左
程デナイヤウナ地方ガアルヤウニ想像スル
ノデアリマス、是ハ甚ダ遺憾ナコトデアリ
マスノデ、モウ少シ有機的ニ效果的ニ其實
績ヲ擧ゲルヤウニ指導シテ戴キタイノデア
リマス、其指導ヲシマスル上ニ於キマシテ、
色々ト其處ニ又豫期シナイ摩擦ガ其事ノ爲
ニ起ッテ居ルコトヲ私ハ見ルノデアリマス、例

ヘバ其援護組合ニ要シマスル資金ノ調達ニ
當リマシテモ、半バ強制的ニ集メテ居ルト
云フヤウナモノ等ガアリマシテ、其事ノ爲ニ
却テ怨ミヲ買フト云フヤウナコトモナキニ
シモアラズデアリマス、皆其援護組合ニ入ッ
テ援護ノ實ヲ擧ゲナケレバナラヌト云フコ
トニ對シテハ、何人モ是ハ異存ノナイコト
デアリマシテ、皆誠心誠意其徹底化ヲ冀ウテ
居ルト思ヒマスガ、唯、ソレヲ行ヒマスニ於
キマシテ、負擔ガ餘リニ或ル者ニ過重ニ
ナツタリ、サウカト思フト割合ニ資力ノアリ
マスル者ガ其援護ニ——何ト申シマスカ、
熱心デナカッタリスルコトノ爲ニ、地方ニ於
テサウ云フ人々ニ對スル不平ノ聲ガ段々
アツクヤウデアリマス、即チ割合ニ下層階級
ノ者ガ相當熱心ニヤッテ居ルニモ拘ラズ、資
産ノアル裕福ナ者ガ不熱心デアルト云フヤ
ウナコトカラ、其一地域ニ於キマシテ色々
ト怨嗟ノ聲ヲ聞キマス

ソレカラモウ一ツハ、援護組合ノ事業ガ
地方々々ノ事情ニ依ッテ多少異ナルコトハ、
是ハ已ムラ得ナイト思ヒマスガ、ソレダカ
ラト云ツテ、今ノヤウナ事情ニ放任シテ置イ
テ宜イノデアラウカ、此點ニ於ケル指導ガ
全ク徹底シテ居ラヌノデハナカラウカ、簡
單ニ申シマス、或ル組合ニ隣接シテ居リ

マス甲乙丙ノ組合ガアリマシテ、其甲乙丙
ノ援護組合ノ取扱方ガ種々ニ相違シテ居
ル、或ル地方デハ或ル者ニ對シテ支給シタ
金ノ額ガ甲乙丙共ニ違フトカ、或ハ又其支
給ノ期間ニ於キマシテモ、或ル組合デハ非
常ニソレガ敏速ニ行ハレ、或ル組合デハ相
當長ク掛リ、或ハ其厚薄ガアル、或ハ又取
扱ノ親切ノ上ニ於テ程度ガ違フト云フヤウ
ナコトノ爲ニ、彼處ノ援護組合ハ非常ニ能
クヤッテ呉レルケレドモ、此處デハドウモ滿
足スルヤウナ風ニ働イテ呉レナイト云フヤ
ウナ組合ノ地域的ニ又色々ナ不平ヲ聞クノ
デアリマス、私ハ大阪ニ於キマシテモ、モ
ウ少シ大阪全體ヲ通ジテ一丸トスル統一ア
ル援護組合ノ事業ヲ遂行シテ行カナケレバ
イカヌノデヤナイト云フコトヲ、市區ヲ通
ジテヤカマシク言ッテ居ルノデアリマスガ、
餘リニ援護組合ノ區域ガ小サ過ギル、サウ
シテ接近シテ居ル、同一町内ニ二ツモ三ツ
モ援護組合ガ組織セラレルト云フヤウナコ
トデアツテ、其活動ガ區々ニナッテ居ルト云
フコト、更ニ又或ル援護組合ヲ組織シマス
ニ於キマシテモ、町會單位ニヤルカ、小學
校ノ通學區域單位ニヤルカト云フコトデ、
相當揉メタコトガアル、其爲ニ町内ノ平和
ヲ亂シタト云フヤウナコトガアツテ、非常ニ

困ツタ問題ニ遭遇シタコトガアリマス、是等

ノ點ニ付テモサウ云フ摩擦直剋ノ起ラナイ

ヤウニ、サウシテ又組合々ニ依ッテサウ

大シタ甲乙ノナイヤウニ、適當ナ指導ヲ執ッ

テ行クト云フコトガ必要デアルト思ヒマ

ス、ソレニハ私共ノ經驗ニ依リマス、小

サナ組合ガ各、會計ヲ別ニ獨立シテヤッテ居

ルコトガ、抑、サウ云フ弊害ヲ醸ス所以デア

ル、事務ヲ取扱ヒマス爲ニハ、小サイ地

域ニ世話人ヲ置イテヤッテ行クトガ必要

デアルガ、援護ノ趣旨ヲ行ヒマス場合ニ於

キマシテハ、大阪ノヤウナ大都市、東京ノ

ヤウナ大都市ニ於キマシテハ、少クトモ其

區ヲ單位ニシテ、同一ノ取扱ガ出來ルヤウ

ナ方法ニ今ノ援護組合ヲ改メテ行カナケレ

バ、却テ將來思ハザル非難攻撃ヲ受ケルノ

デハナイカ、而モ其非難攻撃ハ段々大キク

ナッテ來ルノデハナイカ、ソレデハ長期戦ニ

對應スル銃後ノ施設トシテハ、善イコトヲ

シテ、却テソレガ出征軍人遺家族ニ満足ヲ

與ヘルコトガ出來ナイヤウナ結果ニナル、

是ハ憂慮スベキコトデハナイカト私ハ考ヘ

テ居リマスノデ、其點十分御考慮ヲ下サイ

マシテ、今御方針等ガアリマスナラバ御伺

シタイシ、サウデナイナラバ此點ノ事情ヲ

能ク詳カニ御調査ニナリマシテ、適當ナ對

策ヲ樹テラレンコトヲ希望致シマス

○木戸國務大臣 只今御話ノヤウナ大阪或

ハ東京邊リニ於テモ、都市並ニ都市ニ接續

シテ居ルヤウナ方面ニ付キマシテハ、色々

事情ガ複雑シテ居タリスル爲ニ、多少今ノ

ヤウナ問題ガ起ッテ居リマスコトハ私モ存

ジテ居リマス、是等ニ付キマシテハ十分只

今御話ノヤウナ實情ヲ考慮致シマシテ、其

點ハ是正致シマシテ、其弊害ノ爲ニ此大事

ナ事業ガ非常ナ怨嗟ノ的トナリ、非難ノ的

トナラヌヤウニ督勵スル積リデアリマス

○高橋委員 一寸厚生大臣ニ簡單ニ御尋致

シマス、第一ハ公民制度ト云フモノノ機能

ヲ發揮セシムルコトニ付テ、何等カ厚生省

ノ御抱負ガ今御アリニナルカドウカト云フ

コトヲ御伺シタイ、其理由ハ申シマセヌガ、

大體軍人後援ノ實績ヲ舉ゲルト云フコトニ

付キマシテモ、只今他ノ委員ノ御方カラ御

述ベニナツタ通り、東京ナドニ於キマシテモ、

或ハ町會ガアリ、或ハ在郷軍人會ガアリ、

或ハ青年團等ガアリ、サウ云フヤウナ各種

ノ團體ガ相當相錯綜シテ、本當ノ目的ヲ達

成スルコトニ遺憾ナ點ガナキニシモアラズ

デアリマシテ、此間ニ處スル公民ノ機能ヲ

ドウ云フヤウニ發揮サセテ行クトガ最モ

此目的ヲ達成スル上ニ於テ宜イノデアルト

云フコトニ付キマシテ、若シ厚生省ニ御意

見ガアルナラバ其點ヲ伺ッテ置キタイト思

ヒマス、ソレカラ本案ニ直接關係ノナイコ

トデ、御急ギノ場合悉縮ニ存ジマスケレド

モ、極メテ簡潔ナ御意見タケデ宜シウザザ

イマスカラ、新聞紙等ニ近來現レテ居リマ

ス青年學校ノ義務制度、其點ノ效用ヲ伺フ

コトガ出來レバ幸ヒト思ヒマス、更ニ進シ

テ御承知ノ如ク在郷軍人ハ既ニ法制化サレ

テ居ルノデアリマスガ、既ニ全國ノ都村ニ跨

ル青年團ノ團員數ハ相當多數ニ上ッテ居リ、

一大勢力デアルト申シテモ差支ナイト思ヒ

マス、此青年團ニ對スル法制化等ノ御考ヲ

目下厚生省ハ御持チニナッテ居ラレルカ、此

三點ニ付テ結論的デ宜シウゴザイマスカラ、

伺ッテ置キタイト思ヒマス

○木戸國務大臣 第一ノ御尋ノ公民ニ對ス

ル方針デゴザイマスガ、是ハ御承知ノ如ク、

今次ノ事變ニ付キマシテハ在郷軍人デア

ルカ、青年團デアルトカ、色々モノガ世

話シテ居リマス爲ニ、細カイ點ニ至ッテハ若

干或ハ摩擦ガアツタ點モアリマセウシ、色々

ノコトモゴザイマセウガ、要スルニ支那事

變ニ對處致シマシテ、非常時局ニ當ッテ日本

國民トシテ銃後ノ護リヲ十分ニ致シマシテ

所謂後顧ノ憂ヲ無カラシムルト云フコトニ

向ッテ集中致シテ、活動シテ居ル譯デアリマ

シテ、其意味ニ於キマシテ現在ノ公民教育

ト云フ點ニ付キマシテモ、其方針デ將來ト

モ善處シテ行キタイト考ヘテ居リマス

第二ノ點ハ青年學校ノコトデアリマス、

是ハ厚生省ノ關係デハゴザイマセヌガ、私

兼任致シテ居ル文部省ノ方ノ問題デゴザイ

マスカラ、簡單ニ申上ゲマス、青年學校ヲ

此際義務制ニシマシタ第一ノ點ハ、兵役法

ノ關係モアリマシテ、將來青年學校ノ教育

ガ、今回改正セラレマシタ兵役法ノ機能ヲ

有效ニ發揮スルニハ、是非トモ必要デア

ルト云フ點ニ於キマシテ、文部省モ之ニ贊同

致シマシテ、其義務制ヲ取敢ヘズ採ルト云

フ方針ヲ決メタノデアリマス、併ナガラ其

内容其モノニ付キマシテハ、政府ノ方針ト

致シマシテ、十三年度ニ於テハ準備ニ當リ

マシテ、十四年度カラ實施シテ行クト云フ

コトニシマシテ、是ハ今後長期戦ニ互リマ

スレバ尙ホノコト、中堅層、殊ニ青年層ノ剛

健ナル思想ヲ養ヒ、同時ニ戦後兵役ニ服シ

マスル前ニ、十分ナル訓練ヲ與ヘルト云フ

コトガ是非トモ必要デア

ル爲ニ、此施設ニ

當ル積リデ居リマス

ソレカラ青年團ニ付キマシテモ、是ハ漸

次其團員數モ殖エテ參リ、其機能モ此事變

等ニ於テハ一層發揮シナケレバナラヌ點モ
ゴザイマスノデ、只今御話ノ點ニ付キマシ
テハ考究致シテ居リマスガ、只今マダ申上
ゲル程度ニハ參ッテ居リマセヌ

○最上委員 私ハ現在ノ軍事扶助法並ニ軍
人援護賜金給與ノ狀況ニ付テ詳シク政府委
員ヨリ先ヅ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○山崎政府委員 先ヅ軍事扶助法ノ施行狀
況ニ付キマシテ御答ヲ申上ゲマス、軍事扶助
法ニ付キマシテハ、平年度ニ於キマシテハ大
體四百万圓程度ノ豫算デアッタノデアリマス

〔委員長退席小笠原委員長代理著席〕

然ルニ今次事變勃發以來、負傷者ノ數ガ漸
次増加致シマシタ結果、軍事扶助法ノ施行ニ
要シマスル經費モ相當追加ヲ要スルコトニ相
成ッタ譯デアリマス、御承知ノ通りニ昨年ノ臨
時議會ニ於キマシテ千五百万圓ノ追加ヲ致
シ、更ニ本年ノ末ニ於キマシテ其千五百万圓
ノ追加ヲ以チマシテハ不足ヲ生ジマシタノ
デ、第一豫備金ヲ以チマシテ五百万圓ノ支出
ヲ致シマシタノデゴザイマス、併ナガラ其
二千萬圓ノ資金ト致シマシテモ、更ニ不足
ヲ生ジマシタノデ、休會明ケ劈頭ノ豫算總
會ニ於キマシテ千五百万圓ヲ更ニ追加御協賛
ヲ仰ギマシテ、大體本年度約四千万圓ノ經
費ヲ以チマシテ軍事扶助法ノ施行ニ當ッテ

居ルノデアリマス、法律ノ内容等ハ能ク御

存ジノコトト存ジマスカラ、詳細ヲ申上ゲ
マスコトハ差控ヘマスガ、此軍事扶助法ノ
支給ノ中心ハ、何ト申シマシテモ生活困難

ナル軍人ノ家族遺族、傷病兵ノ家族遺族ノ
生活ノ扶助ガ中心デアリマス、此生活扶助ニ
付キマシテハ、事變後地方ニ於キマスル實
情ヲ具サニ調査致シマシタ結果、從來ノ生

活上ノ金額ヲ以チマシテハ、不足ヲ生ズル
コトガ明ニナリマシタノデ、本年ノ一月一
日カラ全府縣ニ互リマシテ、給與額ノ増加
ヲ致シマシタノデアリマス、其細カイ數字

ノコトハ差控ヘマスガ、大體家族ノ少ナイ
人々ガ、困難ノ程度ガ高イヤウニ見受ケラ
レマスノデ、家族ノ少ナイ人々ニ對シマシ

テハ、大體生活上ニ於キマシテ、從來ノ二
割見當ノ増額ヲ致シマシタノデアリマス、
是等ノコトモゴザイマシテ、本年度ニ於キ

マシテハ約四千万圓ノ經費ヲ要スルコトニ
相成ッテ居ルヤウナ次第デアリマス、尙ホ此
軍事扶助法ノミヲ以テシマシテハ、法律ノ

規定ニ該當スルモノダケデアリマスガ、該
當シマセヌデモ、尙ホ生活困難ナル人々モ
アルノデアリマス、例ヘテ申シマスレバ、

内縁ノ關係デゴザイマストカ、或ハ商工業
者デゴザイマシテ、扶助法ニ當リマセヌケ

レドモ、差當リ生活ニ困ルト云フヤウナ人々

モゴザイマスノデ、是等ニ付キマシテハ、
各府縣ヲ中心ト致シマシテ、相當ノ救助金
ヲ致シ、又昨年ノ臨時議會ニ於キマシテ御

協賛ヲ得マシテ、本年度ニ於キマシテ百萬
圓ノ軍人援護助成費ヲ各府縣ニ配當致シマ
シテ、各府縣ノ救助金ト是等ノ資金ト合セ

マシテ、法律該當以外ノ者ノ扶助ニ當ッテ居
ルヤウナ狀況デアリマス、大體ノ概況ヲ申
上ゲマスト以上ノ通りデアリマス

○最上委員 只今御説明デアリマシタガ、
其巨細ナ點ハ御發表ガアリマセヌデシタ、
其平年度ノ四萬圓ノ中デ、傷病兵ノ家族並

ニ遺族ニヤッテ居ル額ハ平年度下ノ位デアッ
タカ、ソレガ御分リデシタラ承リタイ

○山崎政府委員 只今調査シタモノヲ持ッ
テ居リマセヌノデ取寄セテ申上ゲルコトニ
致シマス

○最上委員 ソレナラバ平年度ノ遺族並ニ
傷病兵ノ家族ニ對スル扶助額、ソレカラ事
變後ニ於ケル傷病兵並ニ遺族ノ扶助額、又

其以外ノ應召者ノ家族ニ對スル扶助額ヲ御
聽シタイノデス、ソレハ各府縣デハ、只今

塚本委員カラ申シタ如ク、軍事扶助料ノ給
與ニ於テ非常ニ區々デアル、例ヘテ申シマ
スレバ、私ノ現ニ體驗シタ實情ヲ申シマス

ルト、群馬縣ノ高崎市デアリマスガ、某出

征兵士ガ戰死シタ、スルト其翌月カラ軍事
扶助料ヲ與レナイ、ソレガ爲ニ其一家ハ生活

ニ非常ニ困ッテ居ル、宇都宮ニ遺骨ヲ取りニ
行ク場合ニ當ッテサハ、扶助料ヲ貰ッテ居ル

ヤウナ家デアルカラ、旅費ガ無イノデス、
私ハ市カラ五十圓ノ香奠ヲ支給スルコトニ

ナッテ居ルノデ、市會議員ヲ介シテ漸クソノ
立替ヲヤッテ、漸ク旅費ニシテヤッタト云フヤ
ウナ事實モアリマス、斯ノ如ク地方ニ依ッテ

ハ戰死スレバモウ其日カラ扶助料ガ貰ヘナ
イト云フ間違ッタ考カラ、ソウ云フヤウニ

ヤッテ居ルノデハナイカト思ヒマス、一面カ
ラ考ヘルト、戰死者ノ遺族ニ今後下ノ位ノ期

間軍事扶助料ヲヤルカ否カハ、是ハ當局デ
モ困ルト思ヒマス、更ニ何時遺族扶助料ガ

來ルカ、又一時賜金サヘ來ナイヤウナ有様
デアリマスカラ、戰死者ノ遺族ニ對スル

○山崎政府委員 只今御要求ニナリマシタ

資料ハ後程詳細調査致シマシテ申上ゲマス、戦死者ノ遺族ニ對シマスル軍事扶助法ノ適用ノ問題デアリマスガ、是ハ御承知ノ通りニ法律ノ立前ト致シマシテハ、戦死ノ場合ニハ家族トシテ扶助ヲ三箇月間ハ繼續スルコトガ出來ル、尙ホ其扶助ヲ以テ打切り難イ場合ニハ遺族トシテ扶助ヲ更ニ繼續スルコトガ出來ル立前ニナッテ居リマス、隨ヒマシテ戦死者ノ起リマシタ場合ニ直チニ軍事扶助法ノ適用ヲ打切ルト云フコトハ、立前トシマシテハアリ得ナイコトノヤウニ考ヘルノデアリマス、併ナガラ御話ノヤウニ地方ノ取扱ノ中ニ於キマシテハ、或ハ多少ノ過誤ヲ生ジマシテ、御話ノヤウナ事實ガアルコトモ全然ナイヤウニハ思ヒマセヌ、サウ云フ點ニ付キマシテハ、私共ト致シマシテモ、出來ルダケ間違ヒノナイヤウニ注意ヲ致シテ参リタイト考ヘマス、尙ホ具體的ノ事實デゴザイマシタガ後程デモ御話ヲ戴キマスレバ、直チニ關係ノ方面ニ注意ヲ促シタイト思ヒマス

○最上委員 私ノハ單ニ例ヲ擧ゲタノデ、實際アツタ問題デアリマスガ、是ハ獨リ群馬縣ノ問題デハナイ、恐ラク全國ノ地方廳ニ於テモ其取扱ガ區々デアルト思フノデス、更ニ私ノ伺ヒタイノハ昨年事變發生以來出

征サレタ人々ニシテ既ニ歸還シタ人モアリマセウ、又先頃ノ政府ノ發表ニ依ッテ、近ク一部ノ軍隊ノ交替ヲ爲スト云フ意向デアリマスカラ、勿論ソレニ依ッテモ歸還ヲセラル、兵士モ澤山アルト思ヒマス、其時ニ、今日歸ッテ來タカラ、其日カラ軍事扶助料ヲ止メルト云フコトヲ、現ニ地方ニ於テハヤッテ居ルノデス、是等モ何トカ考ヘテ貫ヒタイ、今日歸ッテ來タカラ其日カラ止メルト云フコトヲシナイデ、今回ノ事變ニ付テモ官公署並ニ大會社等ニ於テハ、出征兵士ニ對シテハ官公署ハ全額、一般會社等ニ於テモソレノ何割カラ支給シテ居ル譯デアルガ、地方農村ノ子弟等ハ何等ノ恩典ニ與ッテ居ラス、是等官公吏並ニ一般會社員ニ比シテ、地方農民並ニ中小商工業者ノ子弟ハ、不公平ナル處置ヲ與ヘラレルモノナリトノ思想ヲ懷イテ居ル、然ルニ一般官公吏並ニ會社ノ人ハ、歸還スルヤ直チニソレノ其職ニ就クヤウナ次第デアルガ、中小商工業者ノ子弟並ニ地方農村ノ人々ハ左様ニハ参ラナイ、勿論地方農村ノ人々ニアリテハ、直チニ歸還シテ翌日カラ仕事ガ出來ルヤウナモノノ、惜テソレガ直ニ自分ノ生活ノ資ニ當テラレルダケノ仕事ガ出來ルカ否カハ疑問デアリマス、殊ニ中小商工業者ノ子弟ニ於

テハ尙更困難デス、政府ニ於テモ職業ノ輔導、職業紹介等ニ依ッテ、色々對策ヲ講ゼラレテ居ルヤウデアリマスガ、直グ其翌日カラ職業ニ有リ著ケルモノデハナイノデス、斯様ナ場合ニ於テ地方廳ハ今日ドウ云フ風ニ處置セラレテ居ルカ、歸ッテ來テカラ直グ其日カラ軍事扶助料ヲ止メラレルノハ如何ナモノデアルカ、サウナレバ昨日マデハ國家ニ身ヲ捧ゲテ惡戰苦闘シテ來タ勇士モ、歸ッテ來テ翌日カラ直グ生活ニ困ルヤウナ人モ出來ルコトト思フ、是等ニ付テ政府ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ルカ、詳シク御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

○山崎政府委員 歸還者ガ歸休致シマシタ場合ノ對策ニ付キマシテハ、目下關係當局ニ於キマシテ種々考究ヲ致シテ居リマス、差當リノ問題ト致シマシテハ、只今最上サシモ御指摘ニナリマシタ通りニ、從來ノ原職ニ復歸セシムルト云フコトガ最モ肝要ナコトノヤウニ考ヘルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ、中央ニ於キマシテハ厚生省ト陸海軍省ト緊密ナル連絡ヲ保チ、各地方ニ於キマシテハ地方長官ト師團其他ノ軍部御當局ト是又極メテ緊密ニ連絡ヲ取リマシテ、出來ルダケ早く歸休致サレマシタ勇士ノ人々ノ職業ノ復歸ヲ見マシヤウニ、職業紹介機關

ノ擴充ヲ圖リ、或ハ其機能ヲ強化致シマシテ、此方面ニ出來ルダケノ努力ヲ盡シタイト考ヘテ、其方針デ目下著々準備ヲ進メテ居ルヤウナ狀況デアリマス、尙ホ歸還者ニシテ、歸休後生活ノ困難ヲ懸ヘマスル家族ノ問題ニ付キマシテハ、御承知ノ通りニ昨年ノ議會ニ於キマシテ、軍事扶助法ノ改正案ノ御協賛ヲ仰イデ、從來ハ歸還ノ當日カラ扶助ガ止マルコトニ相成ッテ居リマシタノヲ、除隊後二十日間ハ其家族ノ扶助ヲ繼續スルコトガ出來ル立前ニ改正案ノ御協賛ヲ仰イダノデアリマス、此改正案ハ直ニ今回ノ事變ニ依ル歸還者ノ場合ニハ、有效ニ活用サレルモノト期待ヲシテ居ル次第デアリマス、此點ニ付キマシテモ各地方廳ニ十分ニ其趣旨ヲ徹底致シマシテ、即日扶助ガ停止ニナルヤウナコトノ起ラヌヤウニ、必要ナ場合ニハ法律ノ許シマスル限り扶助ヲ繼續致シマシヤウニ徹底致シタイト考ヘテ居リマス

○最上委員 只今色々御説明ガアリマシタガ、嘗テ官公署ニ奉職シテ思ッタ人、會社工場等ニ居ッタ人ハ、職業保障規則ニ依ッテ採用サレル今日ノ非常時局デアルカラ、如何ナル會社ニ於テモ採用スルコトデアルト思フガ、私ノ心配スルノハ、中小商工業者ノ子弟並ニ地方農村ノ人々ノコトデアリマス、

ソレニ對シテ昨年軍事扶助法ノ一部ヲ改正シテ歸休後二十日間ト云フ規定ヲ設ケラレタノデアリマスガ、是トテモ政府ガ各地方長官ニ嚴密ニ二十日間ヤレト云フ指令デモ出サナケレバ、地方ニ於テハ直チニ其日カラ止メテシマフ、現ニ法律ニ依テ規定サレテ居ル遺家族ニ對シテサヘ、扶助料ヲ中止スルノデアアルカラ、一家ノ生活ニハオ構ヒナシト云フ今日ノ狀況デアアル、私ハ此改正當時ハ委員ニナツテ居ラナカッタカラ、其問題ニ付テ私相當意見ガアッタノデアリマスガ、ソレニ付テ申述ベルコトハ出來マセヌデシタガ、其後色々地方ノ狀況ヲ見、又歸還者等ノ生活振リヲ見ルト、二十日間デハ足りナイト思フ、規則ニハサウ云フコトニ決定シタノデアリマセウガ、ドウカ之ヲ最大限度ニ利用スルト共ニ、援護資金其他地方廳ニ於ケル其他ノ後援資金ヲ以テ、是等貧シキ歸還者ヲ救済スルヤウナ手段ニ出デラレンコトヲ望ムト共ニ、厚生省當局ニ於テモ特ニ地方廳ニ御傳ヘヲ願ヒタイノデアリマス、更ニ私ノ御尋致シタイノハ、是ハ先日モ法制局長官竝ニ陸軍當局ニ申上ゲタノデアリマスガ、厚生省ニ於テハ各官公署竝ニ會社等ニ於テ傷病兵ノ歸還者ヲ採用スル場合如何ナル方針ヲ執ラシメル御意向

デアアルカ、現ニ佛蘭西等ニ於テハ傷痍軍人強制雇傭規定ナドガ設ケラレテ居リ、色々詳シイ規則ガ出來テ居ッテ、如何ナル種類ノ傷病兵モ、多クハ出征前ト同ジヤウナ待遇ニ依ッテ採用サレルト云フ規定ガアル、我國ニハ今日未ダ是ガアリマセヌガ、恐ラク戰傷者竝ニ傷痍軍人對策審議會ニ於テ今後之ヲ御決定ニナルコトト思ヒマスガ、ソレハ今後ノ問題デ、今既ニ續々歸還者ガ現レルト云フ此場合ニ於テ、是等戰傷者ニ對シテ各官公署ニ於テハドウ云フ方針ノ下ニ採用復歸セシメルカ、ソレニ付テ政府ノ御考ヲ伺ヒタイノデアリマス

ト豫想サレルノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテハ、國公共團體等ガ率先致シマシテ、是等ノ人々ヲ採用スルヤウナ方策ヲ講ズルコトガ、先ヅ考ヘナケレバナラス點デアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、又民間ノ事業主等ニ於キマシテモ、從前ヨリ自分ノ所デ使ッテ居リマスル人々ヲ使フコトハ勿論、從前使ッテ居ラナイ人々デアリマシテモ、出來ルダケ是等ノ氣ノ毒ナ傷痍軍人ノ人々ヲ使用致シマスルヤウニ、出來ルダケノ勸奨ヲ盡シテ見タイト思フノデアリマス、只今最上サンノ御述べニナリマシタ強制雇傭ノ問題ニ付キマシテハ、種々影響スル所モゴザイマスルノデ、厚生省ト致シマシテハ、今日種々考究ヲ致シテ居リマスルヤウナ次第デアリマシテ、此點ニ付キマシテ、ハ、マダ具體的ニ此處デ申上ゲル迄ニ至ッテ居ナイノデゴザイマス、尙ホ傷痍軍人ノ人々ガ職業ニ就キマスノニハ、殊ニ傷痍ノ程度ノ高イヤウナ人々デゴザイマスレバ、相當ノ再教育ヲ施シマシテ、職業ノ轉換ヲ圖ラナケレバナラスコトハ、是亦御承知ノ通りデアリマス、是等ノ施設ニ付キマシテモ、厚生省當局ト致シマシテハ、種々具體案ヲ目下練リツ、アルヤウナ次第デアリマス、成案ヲ得マスレバ今度ノ議會ニ於キマシテ、

追加豫算ノ場合ニ或ル程度ノ經費ヲ計上シテ、協賛ヲ仰ギタイト考ヘテ居ルヤウナ次第デゴザイマス

○最上委員 只今政府委員ノ御答辯ニ依ッテ、大體政府ノ意ノ在ル所ハ諒承致シマシタガ、然ラバ現在傷痍軍人ニ對シテ國家ガ各種ノ施設ヲシテ居リマス所ノ慰安施設、或ハ授産事業等ハドウ云フノガアルカ、更ニ精神的ノ方面ニ付テ、是等傷痍軍人ニ對シテドウ云フ施設ヲ爲サントスルカ、伺ヒタイノデアリマス

○山崎政府委員 現在傷痍軍人ノ保護ニ付キマシテハ、御承知ノ通りニ國ノ制度ト致シマシテハ傷兵院法ト云フモノガゴザイマス、是ハ現在一箇處國立ノ傷兵院ト云フノガ小田原ニゴザイマシテ、傷痍ノ程度ノ高い人々ヲ此處ニ收容シテ、保護ヲ致シテ居リマスモノデゴザイマス、此外ニ只今段々御話ノゴザイマシタ軍事扶助法ニ依リマシテ、傷病兵竝ニ遺家族ノ扶助ヲ致スコトニ相成ッテ居リマス、是ガ大體現在國ノ法制トシテ認メラレテ居リマス厚生省所管ノ施設デゴザイマス、尙ホ此外ニ既ニ傷痍軍人ニシテ、ボツ／＼歸郷スル人モアルヤニ伺ッテ居リマスルノデ、是等ノ點ニ付キマシテハ、應急ノ施設ヲ講ジタイト存ジマシテ、十二年

度ノ追加豫算ニ於テ是亦適當ノ施設ヲ講ジ

テ、其豫算ノ協賛ヲ仰グ豫定ニ考ヘテ居リ

マス、更ニ又精神方面ノ優遇ノ問題デゴザ

イマスガ、傷痍軍人ノ對策ト致シマシテ、

只今御話ノ精神の優遇ノ問題ハ、是亦重要ナ

施設ノ一ツデアルト考ヘルデアリマス、

是等ノ點ニ付キマシテモ、御手許ニ差上ゲ

テゴザイマス傷痍軍人保護對策審議會ノ答

申中ノ、第一項ニゴザイマスル或ハ名譽ノ

表彰デゴザイマスとか、或ハ各種ノ特典ノ

付與デゴザイマスとか、其他精神の優遇ニ

付キマシテハ、關係各省トモ十分ノ御調ヲ

保チマシテ、是ガ實現ニ努力致シタイと思ッ

テ居ル次第デゴザイマス

○最上委員 簡易保險金ノ戰死者ニ對スル

即時拂ハ是ハ當然デアリマスガ、聞ク所ニ

依ルト、傷病者ニ對シテモ簡易保險金支拂

ノ方針デアルサウデアリマスガ、ソレ等ノ

内容ニ付テ伺ヒタイと思ヒマス

○藤川政府委員 只今ノ御尋ニ御答致シマ

ス、傷病者ニ對シマシテハ其負傷ノ程度ニ

依リマシテ、保險料ノ支拂ヲ免除致シマス

コトハ、現在既ニ實施致シテ居ルノデアリ

マスルガ、更ニ直ニ保險金ヲ支拂フ問題ニ

付キマシテハ、只今調査中デアリマシテ、

マダ決定致シテ居リマセヌ

○最上委員 只今政府委員ノ御答デアリマ

スガ、保險料金ノ免除ハ何項ト何項ノ人々

ニ對シテ免除スルカ、又新聞紙ニモ現ハレ

タコトデアリマスルガ、保險金ノ支拂ニ付

キマシテモ、サウ云フ重キ傷病者ニ對シテ

ハ、特ニ保險金ヲ全額支拂スルト云フ御意

向デアリマスガ、其項目等ニ付テ御聞キシ

タイノデアリマス

○藤川政府委員 癱疾ノ場合ノ保險料ヲ免

除致シマス場合ハ「兩手ヲ失ヒタルトキ」

「兩足ヲ失ヒタルトキ」「一手及一足ヲ失ヒ

タルトキ」「兩眼ヲ盲シタルトキ」斯ウ云フ

コトニナッテ居リマス

○最上委員 ソレカラ保險金額ノ支拂ハド

ウデス

○藤川政府委員 是ハマダ決定致シテ居リ

マセヌ、目下調査中デアリマス

○最上委員 スルト場合ニ依ッテハソレヲ

支拂フト云フ意向デ調査中デアリマスガ、

或ハ全然支拂ハナイト云フ意味ニ解釋シテ

宜イカ、即チ重キ所ノ傷病者ニ對シテ、保

險金ヲ全額支拂フト云フ意味ニ解釋シテ宜

イカ、其點ヲ御伺シタイノデアリマス

○藤川政府委員 癱疾ノ場合ニ直ニ保險金

ヲ支拂ヒマスコトニ付キマシテハ、是ハ簡

易保險法ノ改正ヲ要シマスコトデアリマス、

色々慎重考慮ヲ要スル點ガアリマスルノデ、

調査致シテ居ル譯デアリマス

○最上委員 民間保險會社ト是等出征兵士

トノ間ニ先般應召サル、際ニ各民間會社ニ

於テハ、盛ニ勸誘シ、金額ハ多額デハアリ

マセヌガ、保險契約ヲ爲シテ居ル向キガ多

イノデアリマス、ソレ等ニ對シテ、其後戰

死シタ人々モ多カラウト考ヘマスガ、是等

民間會社ト契約者トノ間ニ於ケル何等カ係

爭ガアル如ク聞イテ居ルノデアリマスガ、

是ハ陸軍當局ニ於テ分ツタ範圍ニ付テ、サウ

云フコトガアルカナイカニ付テ御答辯ヲ願

ヒタイ

○及川陸軍歩兵大佐 御答致シマス、只今

ノ點ニ關シマシテハ、今マデ調査シ得マシ

タ範圍ニ於テハサウ云フ點ヲ耳ニ致シテ居

リマス

○最上委員 是デ私ハ厚生省ニ對スル大體

ノ質問ヲ終リマシタ、最後ニ増加恩給或ハ

傷病者年金受給者ニ對シテ此改正別表以外

ニ、厚生省ニ於テ何等カ救済對策ヲ講ズル

モノナリト私ハ信ジテ、厚生省ノ人々ニ大

體ノ意向ヲ伺ツタノデアリマスルガ、聞ク所

ニ依ルト審議會ガ設ケラレテ、今後之ニ付

テ對策ヲ講ズルト云フ譯デ、目下ノ所具體

的ナ成案ヲ見ナイイカノ如キ次第デアリマス

(小笠原委員長代理退席 委員長著席)

左様デアレバ多少先ニ戻ッテ、法制局並ニ軍

當局ニ御伺シタイノデアリマス、御承知ノ

如ク今回別表ガ改正サレテ、茲ニ第一款ノ

傷病年金受給者ガ第七項ニ昇格サレテ増加

恩給並ニ普通恩給ヲ給サレルト云フコトニ

ナッテ非常ナル恩典ヲ得、又第一目、第二目

ガ第四款ニ改正サレテ、是亦傷病年金ヲ授

與サレルコトニナッテ、傷病者ニ對スル國家

ノ優遇トシテ當然ノコトデアルト思ヒマス、

此改正ノ結果、三目、四目、五目、六目ノ

項目ガ一、二、三、四目ニ改正サレタダケ

デ何等恩典ニ與ラナイノデス、他ノ各項、

各款ニ對シテハ恩典ヲ與ヘテ、是等四目ノ

人々ニ對シテ恩典ヲ與ヘナイノハ如何ナル

譯カ、間違アリマセヌカ

○高木政府委員 私カラ御答致シマスガ、

今回ノ増額ニ付キマシテハ、先般來申上ゲ

マシタヤウニ、成ベク下ニ厚ク且ツ重症者

ニ重キヲ置クト云フ趣旨デアリマシタノデ、

増加恩給第一項、第二項程度ノモノニ重點

ヲ置キマシテ、以下漸次其增加率ガ下ッテ來

テ居リマス、隨ヒマシテ傷病賜金ノ所マデ

ハ及ビマセヌ次第デアリマス

○最上委員 從來法律ノ改正ニ當ッテハ、特

ニ物質上ノ問題ニ付テハ、成ベク一ヲ改正

スル場合ニ於テハ、是ガ全般ニ及ブト云フコトガ、爲政家ノ最モ考ヘナケレバナラヌ點デアルト思ヒマス、然ルニ今回ノ如キ最モ各階級ニ互ル恩給法改正ニ當ッテ、一部ニ對シテハ其恩典ヲ與ヘ、一部ニ對シテハ與ヘナイト云フコトハ、甚ダ此改正ノ趣旨ニ對シテドウカト思フ、其局ニ當ル人カラ見レバ非常ニ不公平ナ處置ト考ヘラレル、既ニ此點ニ付テハ各方面カラ吾々委員ノ所ニモ、色々今回ノ改正案ニ對シ反對シテ參リマス、政府カラ見レバ——重症者ニ厚クシタノデアリマセウガ、彼等カラ申シマス、吾々モ同ジ國家ノ軍人トシテ名譽ノ負傷者デアルカラ、待遇ラ一ニシテ貫ヒタイト云フヤウナ希望ヲ持ツト云フコトハ、當然デアル、更ニ私ハ其人數等ニ付テハ是デハ分リマセヌガ、第一款ニ對スル人數ハ報告ガアリマシタガ、舊法ニ依ル第一目、二目ノ人數、及び三、四、五、六ノ受給者ハドノ位アルノデアルカ、一寸伺ヒタイノデアリマス

○高木政府委員 人數ノ點ニ付キマシテハ、マダ今回ノ事變ノ死傷者ノ總數ト云フモノガ分リマセヌ、從來マデノ例カラ申シマスト、日露戰役ノ例ヲ取ッテ見マスト、増加恩給受給者ガ二萬四千百十六人ニ對シマシテ、傷

病賜金ノ受給者ガ一萬四千九十人ニナッテ居リマス、大體今度ノ事變ニ於キマシテモ、増加恩給受給者ノ方ガ率ガ多カラウト考ヘテ居リマスガ、然ラバ増加恩給受給者ガドノ位アルカト云フコトハ、只今ノ所明確ニ申上ゲルコトハ出來ナイノデアリマス、實ハ此點モ非常ニ考慮致シタノデゴザイスケレドモ、漏レ聞ク所ニ依リマスト、今回ノ事變デハ相當負傷者ガ多イガラウト考ヘテ居リマス、サウ云フ點カラ考ヘマスト、出來得レバ全般的ニ増額ヲスルト云フコトハ、望マシイコトデアルトモ考ヘルノデアリマスケレドモ、又一面國家財政ノ立場カラ考ヘマシテ、非常ナ負擔ニナルト云フコトデアリマスト、是モ考慮シナケレバナラヌ、何處ニ重點ヲ置クカト申シマスレバ、ヤハリ本當ニ働ケナイ、兩手兩足ガナクナツタト云フヤウナ者ニ成ベク十分ニ給與ラシテ、例ヘバ甚ダ氣ノ毒デハアルガ小指一本ナクナツタト云フヤウナ人デアッタラバ、何カ他ノ方法ヲ以テ、是ハ先日モ申上ゲタノデアリマスガ、國家ノ他ノ方法ニ依ッテ殘存能力ヲ働カシムル、恩給トシテノ給與ハ成ベク現在程度ニ止メマシテ、國家ノ負擔ヲ輕クセシムル必要ガアルデハナイカト云フコトデ、立案ヲ致シマシタ

○最上委員 實ハサウ云フ意味デ、私モ此項目ノ問題ニ付テハ、厚生省ガドウ云フヤウナ施設ヲ爲スカ、又現ニ爲シテ居ルカト云フコトヲ聞イタ上デ、此項目ノ御質疑ヲショウト思フタノデアリマスガ、ソレニ對シテ何等對策ヲシナイ、シナイトスレバ、項款目ノ一二ニ對シテ、政府ハ多額ナ増額ヲ爲シタニモ拘ラズ、三四五六ノ四目ニ對シテ何等施設ヲシナイ、只今恩給局長ノ御話デハ、今回ノ事件ニ於テ相當負傷者ガ多イ、其意味ニ於テ改正シタト言フナラバ、此最モ輕イ所ノ傷病者ニ對シテ何故多少ノ恩典ヲ與ヘナカッタカト云フコトヲ、私ハ疑フノデアリマス、先ニモ申ス如ク、傷病者ノ増加恩給受給者ニ對スル項ヲ見テモ、現行法ニ依レバ、一二三四五六ノ各項ガアリマシタガ、其數ハシマヒノ方ガ多イ、即チ第一項症ハ僅ニ百三十五名ガアルニモ拘ラズ、第五症ハ三千三百十四名、第六項症ハ四千二百六十二名ト云フヤウニ多イ、恐ラク項目ニ付テハ、第一ニヨリカ、第三四五六ノ各項目ニ屬スル方ガ、一時賜金ノ受給者ガ多イト思フ、此多イ一時賜金ノ人々ニ對シテモ、多少デモ宜イカラ之ヲ改正スレバ釣合ガ取レ、又公平トモナリ、又是ガ爲ニ思想上ノ色々ナ蟠リヲ生ジナイデモ濟ムト思フ、

然モ一時賜金増加率ハ僅デモ宜イト思フ、之ヲ第一二目ト同ジク、年金制度ニ直シテ戴ケバ尙更結構デアリマスガ、國家ノ財政上サウ出來ナイナラバ、是等ニ對シテモ、何等カ他ノ方法ヲ講ジテ貫ヘレバ宜カッタト考ヘラレル、私達ハ是等ニ付テ重ネテ、政府ハ現在提案シテ居ル本案ヲ以テ善イト思フガ、或ハ三四五六ニ付テモ多少何等カノ方法ヲ講ズル意思アルカ否カニ付テ、御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○及川陸軍歩兵大佐 只今ノ目症程度ノ者ニ對シテ、恩給ヲ増加セヌカト云フ點ニ關シテ御答ヲ申上ゲマス、是ハ先程恩給局長カラ詳細ニ説明ガアリマシタ通りデアリマスガ、更ニ此目症程度ニ關シマシテハ、保護對策審議會ニ於キマシテ、目症程度ノ者ニマデモ一部ノ職業再教育其他ノ方法ニ依ッテ援護ヲ加ヘヨウト云フコトニナッテ居リマスノデ、恩給ニ於テハ増加ハサレマセヌケレドモ、サウ云フヤウナ方面ニ於テ待遇ヲ與ヘルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、其程度デ御諒承ヲ願ヒマス

○最上委員 只今恩賞課長ノ御説明ニ依ッテ、諒承致シマシタ、私モ此目症ニ對シテハ年金制度ニシテ貫ヒタイト云フコトハ希望デアリマスガ、若シ出來ナケレバ、他ノ

方法ヲ以テ、所謂厚生省ニ於ケル所ノ是等傷病兵ノ保護對策ニ於テ、何等カ救済ヲシテ貫ヒタイト考ヘテ居ルノデアリマスガ、只今恩賞課長ノ御説明ニ依ッテ大體承認致シマシタガ、ドウカ是等今回ノ改正案ニ依ッテ何等均霑ヲ與ヘラレナカタ人々ニ對シテハ、出來ルナラバ今後年金ニ直ストカ、或ハ他ノ方法ヲ以テ、國家ガ是等戰傷者ニ對スル最大ナル優遇ヲ與ヘラレンコトヲ希望シテ、大體此恩給法改正法案ニ對スル質疑ハ是デ全部終了致シマス、其他恩給金庫法案ニ對シテモ、或ハ帝國軍人後援會、或ハ海軍義濟會ニ對スル差別的待遇、其他ニ付テモ色々聽キタイノデアリマスガ、同僚他ノ議員ノ質問モアリマスカラ、是ハ其人々ニ讓ッテ、私ハ陸軍大臣ノ質問ヲ殘シテ、此法案ニ對スル質疑ヲ打切りマス

○江藤委員 目症ニ對スル關聯事項トシテ伺ヒタイノデスガ、只今第三目以下ノモノニ對シテ、本改正案ガ何等恩典ガナイ、ソレハ重症者ニ重キヲ置イタ爲ニ、輕症者ニ及バナカッタト云フ大體ノ御答辯デアッタノデアリマスルガ、其趣旨ニハ私モ同感デアリマス、併ナガラ此目症者ノ症狀ヲ考ヘテ見マスト、第三目ハ「一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ」第四目ハ「一側小指ヲ全ク

失ヒタルモノ」此指ノ機能ヲ廢シタリ或ハ無クナッタト云フモノハ、農村ノ者ニ取ッテハ非常ナ打撃ナンデス、御承知ノヤウニ植付ヲシマスノニ、指ガ非常ニ大切デアッテ、機能ヲ害シテ居ル爲ニ、土ノ中ニ指ヲ突込ムコトガ痛クテ出來ナイト云フ者ガ非常ニ多イノデス、デスカラ第三目症以下ト雖モ、農村ノ百姓ヲヤッテ居ル者ニ取リマシテハ非常ナ打撃デアリマス、ソレガ爲ニ到頭百姓ガ出來ズニ轉業ヲシテ居ル者ガ少クナイノデアリマス、デアリマスカラ、是ハ所謂知識階級デ、頭ヲ使ヒロヲ使ッテ生活ヲシテ居ル者ニハ、是等ハ大シタ影響ハナイヤウデアリマスルケレドモ、勞働者ニ取リマシテハ、此目症以下三目以下ト雖モ非常ナ是ハ障礙ヲ爲スノデアリマス、是等ヲ考ヘマスト、是等ノ者ニ何等恩給法ニ依ッテ恩典ヲ

御與ヘニナラヌト云フコトハ、私ハ適當デナイト思フ、尙ホ財政ノ關係モアルト云フ御答辯デアリマシタガ、茲ニ政府カラ御提出ニナッテ居リマス昭和十一年末傷病賜金受給者ノ階等別人員及金額表ト云フノガアリマス、之ヲ拜見シマスト、是ハ私ノ見違ヘカモ知レマセヌガ、第三目ハ合計ニ於テ二十九人トアリマスガ、是ハドウ云フ譯デセウ、金額ニ於テモ僅カニ二万七千五百十圓、

是ハドウ云フ表デアリマスカ、私ノ此表ノ見方ガ惡イノカモ知レマセヌガ、是モ一ツ御説明願ヒタイト思フノデアリマス

○高木政府委員 只今ノ御尋ノ前段ニ付キマシテハ、是ハ具體的ノ問題ニナリマスト、其職業ニ依ッテ機能障礙ガ及ボス影響ハソレゾレ違フト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ、例ヘバ足ヲ動かカス仕事ニ於テハ、足ノ障礙ガ非常ニ大キク考ヘラレ、又坐職ヲシテ居ル者デアレバ、足ノ障礙ガ大シタコトデナイト云フコトニモナルノデアリマシテ、其點ハ劃一的ノ基準ヲ取ッテ居ル恩給法ト致シマシテハ、個々ノ場合ニ於ケル障礙ヲ考ヘテ、恩給ヲ給與スルト云フコトハ、一寸困難デアリマス、極メテ抽象的ナル基準デ甲號ノ等差ヲ定メル外ナイト考ヘルノデアリマス

僅少デアリマシテモ、總額ニ於テハ相當ノ負擔ニナルコトト考ヘルノデアリマス、サウ云フ點モ考慮致シ、又過去ノ受給者ノミナラズ、將來ノ受給者ト云フコトモ考慮ノ中ニ加ヘマシテ、實ハ此傷病年金ナリ、増加恩給ナリ或ハ傷病賜金ナリノ關係ヲ考慮致シマシテ、斯様ナ立案ヲ致シタノデアリマス

○江藤委員 今ノ第一段ノ御答ニ付テハ諒承致シマス、勿論其通りデアリマスガ、私ノ憂ヘマスコトハ、アナタ方ガ御考ヘニナル時ニ、勞働者ノコトガ閉却サレテ居ルノデハナイカ、アナタ方御役人ガ御考ヘニナリマスルカラ、勞働者ト云フコトガ、ドウモ薄クナルノデハナイカト云フコトヲ憂ヘルノデアリマス、是ハ百姓ダケデアリマセヌ、手先ノ仕事ヲスル者ハ皆相當ノ苦痛ヲ感ズルノデアリマス、唯一ニ農村ヲ例ニ舉ゲタダケデアリマス、而シテ又勞働者ト知識階級トノ比較ヲ御考ヘニナリマスト、負傷ヲシタ兵隊ノ數ハドチラガ多イデセウカ、私ハ農村ノ人ガ多イト思フ、其次ガ勞働者デセウ、サウ云フコトヲ御考ヘニナリマスト、此負傷ヲシタ者ノ大多數ガ勞働者デアリ、サウ云フ支障ヲ來スモノデアルト云フ御考カラ、此改正案ヲ御立案ニナルナラバ、ド

次ニ傷病賜金ノ受給者ノ數デアリマスガ、恐ラク御手許ニ參ッテ居リマスノハ、現存ノ過去ノ分デアラウト思フノデゴザイマス、私共財政上大キナ影響ガアルト申上ゲマシタノハ、實ハ過去ノ分ダケデアリマセヌノデ、將來ニ於テ今回ノ事變ニ依ッテ生ズル所ノ目症程度ノ負傷者ト云フモノハ、夥シキ數ニ上ルコトト實ハ想像シテ居リマス、其爲ニ各目ニ於ケル各人當リノ金額ハ極メテ

ウシテモ是モ一ツ恩典ヲ御與ヘニナルト云フ頭ガ起テ來ナケレバナラヌト思フ、其頭ガナイカラ、斯ウ云フコトガ閑却サレルノデハナイカト思フノデアリマス

ソレカラ又第二段ニ付キマシテハ、是ハ過去ノ數デ間違ナイト云フコトデアルナラバ、過去ニ於テ僅カニ二十九名、是ガ全數デアリマスガ、恐ラク全數デナカラウト思フノデアリマスガ、斯ウ云フ少數ノ問題ナラバ、私ハ問題ヂヤナイト思フ、是ハ將來十倍ニ殖エテモ二百九十人、又今次ノ戰爭ノ性質ヲ考ヘテ見マスルト、過去ノ戰爭ノ性質ト較ベテ、私ハ斯ウ云フ輕傷者ガ非常ニ多イトハ考ヘマセヌ、寧ロ今次ノ戰爭ハ重傷者ガ多イトデハナイカ、所謂接近ヲ致シマシテ戰ラスル場合ガ多ク、又兵器ノ關係モ過去ト違ヒマシテ、今次ノ事變デハ手榴彈等ノ關係デ、重症者コソ多カレ、斯ウ云フ輕症ノ者ハ少イト思フ、假ニソレガ少々多クナリマシテモ、前段ノ理由ニ依リマシテ法律ニ依ッテ恩典ヲ御與ヘニナルコトガ私ハ當然ダラウト思フノデアリマスガ、重ネテ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○高木政府委員 御話ノ點ハ洵ニ御尤ダト考ヘマシテ、私共モ日々恩給ノ處理裁定ヲ致シテ居リマシテ、隨分氣ノ毒ニ考ヘルノ

デアリマス、吾々自身ノ身ト比較シテ考ヘテ見マシテモ、一生涯指ノ二本ナイト云フコトヲ想像スレバ、非常ニ氣ノ毒ナコトデアツテ、國家トシテハ出來ルダケノコトヲスルコトガ宜シイト考ヘテ居リマス、併ナガラ是ハ先程モ申上ゲマシタヤウニ財政上ノ問題デアリマシテ、總テガ宜ク行クヤウニト云フコトハ望マシイコトデアリマスケレドモ、又一面困難ナコトト考ヘマス、ソレデ先程申上ゲマシタヤウニ、今回ノ改正ガ重症者ニ重キヲ置キマス結果、下ノ方ニ段々輕クナツテ來マス、只今御覽ニ入レマシタ表デモ、第一目ト第四款トヲ比較シテ戴キマシタナラバ、大體御分リニナルコトト考ヘマシガ、今度出來マシタ第四款ノ額ハ從來ノ年金、一時賜金カラ申シマス、九百圓ノ額ガ百五十圓ノ年金ニ變ッテ居ルト云フ程度ニシカナツテ居ナイノデアリマス、詰リ第一目カラ申シマス、第一目ハ丁度今度出來マス第一款ノ四年分ニ相當スル譯デアリマスカラ、假ニ從來ノ一目ヲ取ツテ見マスト、六年分ヲ一時ニ支給サレテ居ル譯デス、是ハ一時金換算給與ノ關係カラ申シマス、一概ニハ申サレマセヌガ、却テ一時金ノ給與ヲ受ケタ方ガ宜イ場合モ相當アルト思フノデアリマス、又現ニ滿洲事變

等ノ結果ヲ見マス、款目程度ノ者デ急激ニ爾後重症ニナリマシテ死亡シタト云フ數ガ相當アル、サウ云フ點カラ考ヘマス、場合ニ依リマスレバ、年金ヲ貰フヨリモ一時金ヲ貰ツタ方ガ宜イト云フ場合モ往々ニシテアル譯デアリマシテ、其間ノ關係ハ必シモ不公平ニハ行ッテ居ラナイヤウニ考ヘ

ル、要スルニ傷病年金ノ下ノ方ハ大シタ増率ラシテ居ラナイノデアリマス、結局上ノ方、増加恩給以上ノモノニ重キヲ置キマスノト、増加恩給ト傷病年金トノ關係ヲ滑カニスルト云フ點ニ重點ヲ置キマシテ、其他ノ輕症者ニ對シテハ甚ダ御氣毒デアリマスケレドモ、何カ他ノ政府ノ施設ヲ以テ、或ハ再教育ヲスルトカ、職業ノ輔導ヲスルトカト云フコトニ依ッテ、殘存能力ヲ活カスコトニ致シタイト云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ御手許ニ差上ゲデアリマス傷病賜金受給者ノ階等別人員及金額表ニアリマス十一年末ト云フノハ少シ惡カッタト思ヒマス、是ハ十一年中ニ於ケル裁定人員ノコトデアリマス、十一年末ト云フノハ十一年中ニ於テ裁定シタ數ト云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、ソコデ今回ノ事變ニ於テ目症相當ノモノガドレダケアルカト云フト、一寸想像ガ出來ナイノ

デアリマスガ、此點ハ私共ノ想像以上ニ多イヤウニ伺ッテ居リマスカラ、寧ロ軍ノ方カラ御説明ヲ願ツタ方ガ宜シクハナイカト思ヒマス

○江藤委員 只今ノ政府委員ノ御説明ニハ私承服ガマダ出來ナイノデアリマス、尙ホ私ノ質問ノ時ニ詳シク申上ゲマスガ、重症者ノ増加恩給モ私ハ甚ダ少ナイト思ッテ居ルノデアリマシテ、御趣旨ニ適ッテ居ラナイ、尙ホ滑カニスルト云フ點カラモ、項症ノ中ニ於テ非常ニ滑カデナイ所ガアル、今御説明モアリマシタヤウニ、款症ト目症トノ間ノ滑カナ點ニ付テモ、非常ニ反對ノ結果ヲ來シテ居ルト云フコトハ、今政府委員モ仰ツタ通りデアリマス、現行法ニ於テハ第四款ト一目トハ今約六倍ダト仰シヤッタガ、是ハ百三十圓ニ對シテ九百圓デアリマスカラ、約七倍デアリマス、ソレガ本案ニ於キマシテハ四倍デスカラ、寧ロ惡クナツテ居ル、傷痍軍人ノ實際ノ希望カラ申シマスルト、今政府委員モ仰シヤッタヤウニ、怪我ハ一時的デハナイカラ、見ル度毎ニソレヲ思出シ、見ル度毎ニ人カラモ其怪我ヲ考ヘラレルノデアリマス、故ニ是ハ元來年金ニスルコトガ本則デアルト云フコトハ、極員恩給局長モ仰シヤツテ居ル、ソレガ本則デアアルノダケレドモ、財政ノ關

係上已ムヲ得スト仰シヤラレタ、サウ云フ
點カラ考ヘマシテモ、是等ノ第三目以下ヲ
恩給法ニ依ッテ何等御優遇ニナラナカッタ
云フ點ニ付テハ、單ニ財政ノ關係ト云フコ
トダケニ結論サレト思フノデアリマス、
サウスルト其財政ト云フコトニ付キマシテ
ハ、之ニドノ位ノ金ガ要ルカ分リマセヌガ、
私ハ國民ハ決シテ之ヲ否ムモノデハナイト
思ヒマス、又近衛總理大臣ハ、負擔ハ均衡
ヲ得ナクテハナラス、不均衡ト云フコトハ
イカヌ、ソレヲ滑カニスルコトガ最モ必要
デアルト云フコトヲ、本會議ニ於テモ豫算
總會ニ於テモ度々仰シヤッテ居ル、事實目症
以下ノ者ガ勞働者ニ多ク、是ガ直ニ生活ニ
支障ヲ來ス、サウ云フ者ハ恩給法ニ於テ少
シモ優遇セズニ、ソレ以上ノ者ダケヲ優遇
スルト云フコトニナリマス、是ハ負擔ハ
均衡のニヤル、平均的デナケレバナラス
云フ總理大臣ノ御趣旨ニモ背クト私ハ思フ
ノデアリマス、デアリマスカラ三目症以下
ヲ恩給法ニ於テ御優遇ニナラナカッタ云
フ點ニ付テハ、本員ハ今ノ御説明デハ承服
ハ出來マセヌ、反對デアリマス、終リ

○前田委員長 坂東幸太郎君ヨリ議事進行
ニ關シ發言ヲ求メラレテ居リマス、此際許
シマス——坂東君

○坂東委員 過日委員カラ參考資料ノ提出
ヲ政府ニ要求シテ居ッタデアリマスガ、其
中政府ハ色々言葉ヲ設ケテ、故意ニ提出ヲ
拒マレ、或ハ又其提出ヲ避ケテ居ルモノガ
アル、私ハ恩給金庫法案ニ對スル政府ノ態
度ハドウモ解セナイ點ガアル、此參考資料
ノ提出ヲ拒ムガ如キハ、政府ハ一種ノ對議
會戰術ヲ使ッテ居ルモノト私ハ斷定スル、何
故ニ資料ノ要求ヲシタカト申シマス、ア
ノ恩給金庫法案ハ非常ニ内容複雑デアルカ
ラ、有ユル資料ヲ吾々ニ出シテ貰ッテ、冷靜
ニ之ヲ檢討シナケレバ通スコトガ出來ナイ、
一例ヲ申上ゲマシタナラバ、大審院ノ判決
例、ソレハ此間政府ガ出シマシタノハ、恩
給ヲ取戻サレマシタ判決デアリマシテ、ソ
レハ債權者ノ方面ガ不利益ニナッタ判決デ
アル、所ガ其半面ニ刑事裁判ニナリマシテ、
恩給受給者即チ金ヲ借りタ人間ガ詐欺罪ニ
依ッテ懲役八箇月ノ處分ヲ受ケタ例ガアル、
ソレヲ理由ニ設ケテ提出ヲ拒ンデ居ル、吾々
ハ恩給受給者ノ方面モ考ヘ、亦債權者ノ
方面ヲモ考ヘテ冷靜公平ナル審査ヲシナケ
レバナラスト云フコトハ當然デアルト思フ、
故ニ私ハ政府ガ提出セラレナケレバ、私自
身之ヲ判決例ニ依ッテ調べテ參リマシタノ
デ、此判決例ヲ委員長ノ御許シヲ受ケマシ

テ速記録ニ掲載致シ、ソレニ依ッテ委員ガ
十分ニ檢討シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、
ドウカ委員長ノ御許シヲ願ッテ速記録ニ掲
載シタイト思ヒマス

○前田委員長 宜シウゴザイマス——本日
ハ是ニテ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨ
リ開會致シマス

午後零時十二分散會

〔坂東委員演說參照〕

大審院判例集

〔昭和八年四月十五日發行
第十二卷第二號拔萃〕

恩給證書擔保

○詐欺被告事件

〔昭和七年（レ）第一七九四號
同八年二月二十三日棄却
第二刑事部判決〕

〔上告人〕 被告人 須藤 萬吉

辯護人 村松 久義

〔第一審〕 登米區裁判所

〔第二審〕 仙臺地方裁判所

○判示事項

私法上無効ナル行爲ニ關スル欺罔手段
ト詐欺罪ノ成立

○判決要旨

恩給ヲ受クル權利ヲ擔保ニ供スル意思
ナキニ拘ラス恰モ之アルモノノ如ク裝
ヒ相手方ヲ欺罔シテ金員ヲ交付セシメタ

ルトキハ該權利ヲ擔保ニ供スルコトカ
私法上無効ナルノ故ヲ以テ詐欺罪ノ成
立ヲ妨クルコトナシ

〔參照〕 刑法第二百四十六條 人ヲ

欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十
年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利
益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシ
メタル者亦同シ

恩給法第十一條 恩給ヲ受クルノ權

利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スル
コトヲ得ス 恩給ヲ受クルノ權利

ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス 但シ
國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依
ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及
法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處
シ訟訴費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判
決ヲ爲シタリ

被告人ハ豫メ仙臺市本櫓丁佐々木ヒサヨリ
金員ヲ借受ケ其ノ債務ノ辨濟ヲ擔保トス
ル目的ヲ以テ自己ノ有スル年額金百九十
六圓ノ看守普通恩給證書ヲ同人ニ交付シ
居リタル處昭和六年十二月二十六日同市
東六番丁伊藤利藏方ニ於テ右利藏ニ對シ

眞實右恩給證書ヲ擔保ノ目的ニテ同人ニ交付スルノ意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク僞リ申聞ケ金八百圓ノ貸與方ヲ申込ミ因テ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同日右ヒサ方門前ニ於テ現金六百九十圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人村松久義上告趣意書本件斷罪ノ資料ハ果シテ恩給證書ヲ擔保ニ提供シタルヤ否ヤニ在リテ存ス債務者タル何人ト雖其ノ擔保無カラシコトヲ欲シ債權者ノ何人ト雖其ノ擔保ヲ握ラント欲スル是人情ノ當然ナリ而シテ其處ニ資本家ト無產者トノ鬭爭アル當ニ然リトス本件ノ金主タル被害者(若シ被害ト稱スヘクンハ)ハ本性質屋營業者ナルモ所謂「恩給貸」ヲ業トセス質業者ノ常トシテ先ツ第一ニ頭腦ニ

畫ク處ノモノハ「質草」ノ良否ニ在リ常ニ動產物ノ擔保ヲ提供セシムルハ質業者ノ質業者タル所以ナルコト多言ヲ要セス此「考ヘ」此頭腦ヲ以テスルカ故ニ恩給證書ヲ提供セシムルハ違法ナルヲ知り乍ラ尙且法ノ禁ヲ冒シテ之ヲ握取セントス而シテ若シ之ヲ握取セサレハ詐欺ナリトシテ告訴ス脱法行爲ヲ敢行シテ巨利ヲ貪ルハ罪ニアラスシテ此ノ難ヲ免レタル債務者ハ果シテ罪アリヤ否被告ニ果シテ罪アリトセハ恩給法第十一條ノ精神ヲ酌ミ所謂「恩給貸」ニ悉ク敗訴ノ判決ヲ言渡ス民事訴訟ト全然沒交渉タルモ可ナリヤ否ヤ恩給法第十一條ノ精神ハ民事ニ於テハ擁護セラレ刑事ニ於テハ擁護セラレサルカ否カ一ハ排斥セラレ一ハ認容セラルトセハ或時ハ武器トナリ或時ハ凶器トナル法ハ嚴トシテ存ス豈如斯矛盾アルヘキ理ナカルヘシ今本件ノ内容ヲ檢討スルニ被告人第二審公判調書ニ13答、最初十一月月上旬佐々木ヒサニレアル恩給證書ヲ擔保トスヘケレハ金八百圓ヲ借受ケタシト申入レマシタ處(中略)伊藤ハ手數料不用タト云フタニ拘ラス一割ノ手數料ヲ貰フト云ヒ出シ東海林ニモ何程カ周旋料ヲ與ヘネハナラスノテソレ等ヲ差引クト私ノ手許

ニハ幾何モ殘ラス様ナ具合テアツタカラ伊藤利藏ニ金借スルコトヲ止メタト斷ツタノテアリマス14答、私カラ斷ツタノテアリマス本件犯行以前ニ東海林與市ヲ介シテ伊藤利藏ニ恩給證書ヲ擔保トナシ金八百圓ヲ低利無手數料ニテ借入ヲ欲シタリ然ルニ金主ニ一割ノ手數料世話人タル與市ニ三十圓ノ手數料ヲ與ヘネハナラス是ヲ差引クトキハ手許ニ幾何モ殘留セサルヲ知りタレハ同シク恩給證書ヲ擔保ニ供スルトスレハ借入條件カ餘リニ不利ナルヲ以テ手許ニ殘留金少キ以上ハ借換フルノ必要ナリト思料シタルカ故ニ被告自ラ破談シタルモノナリ而シテ與市ハ金員貸借ノブローカーナリブローカーノ心情トシテ貸借ヲ成立セシメサヘスレハ手數料ヲ收得スルカ故ニ此貸借成立マテニハ婚嫁ノ所謂「媒人語リ」ノ術策ヲ弄スルカ常ニシテ一意貸借ノ成立ニノミ腐心シ中間ニ介在シテ所謂「媒人語リ」ノ結果貸人伊藤ト借人被告トノ間ニ意思ノ疎通セサル點意見ノ不一致アリタル事ハ右三者ノ供述ニ徴シテ明ナリ第19答、私ノ方ハソレ切リニナリマシタカ其ノ後(中略)東海林ハ君ノ爲ニ信用ヲ落シタト云ヒ是非君伊藤カラ借金セヨト勸メマシタカ私ハ

固辭シマシタケレトモ再三ノ勸メナレハ私ハ恩給證書ハ俺カ留置キ四箇年間ニ毎年二百圓位ツツ拂ヒ又恩給ヲ受領シタ都度入金スルコト君ノ禮ハ二十圓位トシ金主ノ手數料モ取ラヌ様ニスルナラハ八百圓ヲ借りテモヨイカ如何ト云ヒマシタ處東海林ハソレハ出來ヌカモ知レヌカ行ツテ相談スルトノ返事テシタカラ私ハ伊藤ヘノ土産物ヲ東海林ニ託シ末無掃部丁ノ高砂旅館ニ引上ケマシタツノ晩八時頃ニ東海林ハ高砂屋ニ私ヲ尋ネテ來テ伊藤ニ話シタ處同人ハ君ヲ信用シテ君ノ申入レタ通り稍承諾シタ故(後略)云々トアリテブローカーノ心情躍如タルモノアリテ恩給證書ヲ擔保トスル條件ノ貸借ヲ被告ヨリ進ンデ破約シタリシヲ昭和六年十二月二十六日ニ新ニ貸借カ成立シタルモノニシテ其ノ條件ハ(1)恩給證書ヲ擔保トセサルコト(2)代リニ債權確保ノ方法トシテ對人擔保トナシ教員タル息子正龍ヲ保證人トスルコトトナシタルニ(2)ハ被告カ拒絕シタレハ(3)又モ對人擔保ノ方法トシ金八百圓ノ生命保險ヲ付スルコトト條件ヲ決定シタリ以上ノ條件ナルコトハ(1)本件貸借契約ノ最重要書類タル借用證書(證第三號)中ニ印刷シアリタル「恩給證書ヲ擔保トシ」ノ文字

ヲ抹消シタルハ貸主タル利藏ノ指圖ニ出
テタルモノニシテ被告ノ意思ニアラス又
貸主利藏ハ恩給擔保ハ法ノ禁スル處ナル
ヲ熟知シ居リタルコトハ同人ノ訊問調査
ニ問、何故ニ抹消シタルカ、答、恩給證書ニ
質入書入ラスル事ハ出來ヌ旨書イテアルト
ノ事テシタカラ禁シテアル事ヲ書イテハ
惡イト思ヒ恩給ヲ擔保トシテ文字ヲ抹消
シタルアリマスト明言シアルニ徴シ(2)
受領證(證第六號)ハ貸主タル伊藤利藏カ
自ラ執筆シ被告ノ印形ヲ受取り作成シタ
ルモノナルコト(3)特約書(證第七號)モ作
成竝ニ印捺カ同一狀態ナルコト(4)白紙委
任狀ハ金貸ノ常トシテ公正證書作成又ハ
其ノ他ノ用務ニ充ツル目的ヲ以テ數通ヲ
作成セシムルコトハ寧ロ常態ナルニ之ヲ
以テ直ニ恩給金受領ヲ委任スル爲ノ委任
狀ナリ故ニ初メヨリ恩給證書擔保ノ意思
ナリト斷スルハ大ニ早計ナリトス換言ス
レハ信用貸ナレハソレ丈ケ危險性多分ナ
ルカ故ニ公正證書作成私證書作成書換等
ヲ豫想シ豫備委任狀ヲ握持スル必要アル
カ故ニ數通ヲ作成スルコト決シテ珍ラシ
カラス況ンヤ公正證書ヲ作成スル爲ノモ
ノモアリタルニ於テオヤ(5)若シソレ被告
人ハ「恩給證書ヲ佐々木ヒサニ擔保トシ

テ差入レ借金シテアルノテ同人ニ金六百
圓ヲ渡セハソレノ證書ヲ戻シテ私ノ方ニ
渡スコトカ出來ルト云ヒマシタ云々(利
藏證言)トアルモ本趣意書冒頭記述ノ如
ク金貸業者ノ猛烈ナル慾心ニ基ク錯覺ニ
アラスンハ東海林與市ノ「媒介人語リ」ト
云フヘク之ヲ以テ恩給證書ヲ擔保トスル
意思アリタリト斷スルコトモ亦早計ナリ
(6)若シ又恩給證書ヲ擔保トシテ提供セシ
ムルコトノ被告ノ承諾ヲ得タリシモノト
セハ果シテ恩給證書ヲ握持シ得ルヤ否ヤ
ヲ案スルコトナク從テ仲介者ノ外ニ貸主
モ附近ノ下駄屋ニ隠レテ被告ノ行動ヲ監
視スルノ必要ナカルヘク況ンヤ佐々木ヒサ
ハ同業者其ノ内縁ノ夫ノ大橋憲一ハ知人
ナルヲ以テ尙更其處ニ同道スヘキニ事茲
ニ出テサリシハ該證書ヲ擔保トスル約束
無カリシモノタルノ一證左タラスンハア
ラス以上(1)(2)(3)(4)(5)(6)ヲ綜合考覈スレハ金
主ニ對シ恩給證書ヲ擔保トスルノ意思表
示ナカリシハ勿論其ノ意思ニ非サリシモ
ノナルヲ以テ單ナル信用貸ナリトス從テ
罪有ルモノト爲スヘキ點毫モ無キヲ以テ
無罪タル可キモノニシテ刑法ヲ不當ニ適用シ
タルノ違反アリト信ス本趣意書前段ニ記述
シタル如ク明ニ恩給證書ヲ擔保トシ又ハ其

ノ受領方ノ委任ヲ爲ス旨ノ契約ヲ爲シ乍ラ
民事訴訟ニ於テハ借人即チ債務者ノ主張
ヲ正當ナリトシテ認メラレ以テ恩給證書
ノ返還ヲ命セラルルノ判決ハ隨所ニ散見
スル處ナレハ斯クノ如キモノハ本件ニ比
シヨリ以上惡性ノ詐欺ナリト謂フニ難カ
ラス若シ夫レ本件ハ民事訴訟ヲ以テ債權
者ニ對抗スレハ明瞭ニ被告ノ人ノ勝訴タル
ヘク擔保物ヲ金主ニ渡シテ後ニ民事訴訟
ヲ以テ返還ヲ求ムレハ合法正當トシテ認
メラレ擔保物ヲ渡サス且貸主ニ先シセラ
ルレハ詐欺ヲ以テ問擬セラルルテフ不合
理ハ同一法ヲ適用スル國家トシテ將又刑
事政策トシテ適正ナルヤ否ヤ惟フニ此點
ニ於テモ法律ヲ不當ニ適用シタルモノト
信ス而シテ「疑ハシキハ罰セス」トハ刑
罰法上ノ大原則ナリ以上所論ノ如ク少ク
トモ「疑ハシキ點」多々アルニ因リ無罪タ
ルヘキモノト信ス以上ノ理由ニヨリ原審
ハ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在
レトモ

ルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ア
リト認メ難シ而シテ(要旨)原判決認定
ノ如ク眞實恩給證書ヲ擔保ノ目的トシテ
交付スルノ意思ナキニ拘ラス恰モ之アル
モノノ如ク裝ヒ相手方ヲ欺罔シテ金員ヲ
交付セシメタルトキハ詐欺罪ヲ構成スル
コト勿論ニシテ所論ノ如ク恩給ヲ受クル
權利ヲ擔保ニ供スルコトハ法ノ禁スル所
ニシテ私法上無効ナリトスルモ詐欺罪
ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス蓋シ詐欺罪ハ
欺罔手段ヲ施シ相手方ヲ欺誤ニ陷ラ
シメ不法ニ財物ヲ交付セシムルニ因テ成
立シ欺罔手段タル行爲カ法律上有效ナル
カ否ヲ問フノ要ナケレハナリ 然ラハ原
審カ被告人ノ判示行爲ニ對シ刑法第二百
四十六條第一項ヲ適用處斷シタルハ正當
ニシテ論旨ハ理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四
十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事大原昇關與